企業名：石油資源開発

レポート名：統合報告書 2021

1.　この会社が目指す姿が理解できるか

石油資源開発が目指している姿は二つの理念に説明できる。エネルギーの安定供給と社会貢献である。当社は国内外において石油・天然ガスの供給に取り組んでいる。また、国内インフラ基盤を活用したガスサプライチェーンを、電力供給を加えてさらに強化し、新技術開発と事業化を通じてエネルギーや気候変動に係る持続可能な社会への課題解決にも貢献している。ステークホルダーとの信頼を最優先しながら企業としての持続的な発展と企業価値の最大化を図っている。創立以来に石油・天然ガスの安定供給と深鉱開発技術の発展に注目していた当社は、エネルギー需要構造の変化を踏まえ、電力や環境配慮型の事業創出を推進し、総合エネルギー企業として成長を目指している。これらが当社の経営理念である。

また、当社はこのような経営理念を実現するために、グループの役員・従業員が守るべき野倫理行動規範を定めている。それは社会貢献、人権尊重、法令遵守などが含まれ、社会から信頼される企業であり続けるための内容である。

2.　この会社の競争優位性が理解できるか

石油資源開発は石油・天然ガス事業において競争優位性を持っている。その事業における当社の強みは「総合技術力」と「国内のインフラ」である。

当社の「総合技術力」について説明する。当社は E＆P 事業（ 石油・天然ガス開発事業 ）全般を自社グループで完結できる総合技術力を有している。また、E&P 事業での技術・知見を活用し、脱炭素社会の実現に貢献する CCS を中心とした新規事業への技術力の応用に取り組んでいる。また、E&P 事業に加え、輸送、輸入 LNG の気化、天然ガス発電など、サプライチェーン全般を自社グループで完結できるオペレーター能力を持っている。

二つ目の強みである「国内のインフラ」はどうか。当社は多様なガス供給ネットワークを持っており、天然ガスや LNG を独自の天然ガスパイプライン網、鉄道タンクコンテナなど多様な郵送手段を通じて安定供給をしている。また、インフラ操業体制として国内のガス田において国産天然ガスの地価貯蓄を実施しているため、需要の変動対応や緊急時の安定的なガス供給ができる。また、重大な事故や災害のない万全なインフラ操業体制を構築しており、東日本大震災などの緊急時にも安全を確保して早期の復旧と供給再開を実現した。

石油資源開発は創立から E&P 事業に取り組んでいた会社である。そのため、E＆P 事業全般とサプライチェーン全般を自社グループで完結できるのは非常に重要な利点であり、その結果、緊急時にも供給できる能力にもつながる。

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

石油資源開発は何十年間 E&P に関する事業に注目していたが、エネルギー需要構造の変化を踏まえて総合エネルギー企業としての成長を目指している。そのため、今まで E&P 事業を行いながら取得した技術・知見を活用して CCS を中心とした新規事業に取り組んでいる。CCS はカーボンニュートラル社会実現のため重要な技術である。環境保護のように持続可能な社会のため努めるのは、現代社会において企業が成長するために大事な要素になっている。その中、石油資源開発は当社の強みである E&P 事業での総合技術力・国内インフラを CCS において活用している。さらに、CCS に必要な要素を自社グループで完結できる技術力だけでなく、人材も有している。加えて、そのためのインフラ設備も保有しており、国内トップランナーとして CCS の早期実用化と事業化のための大切な利点を持っている。その結果、当社の競争優位性の持続性があると結論できる。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

できると思う。当社は、授業印一人一人のキャリア開発を通じた自己実現と、その実現のために求められる能力やスキルの効果的な形成や工場を支援する「キャリア開発制度」や「教育プログラム」を導入している。

5. 報告書にはどのような改善余地があるか